

文字化の基準・記号の見方

文字化はまず各地点の収録担当者たちが行い、その後、文字化担当者が検討会を開き、音声を聞きながら文字化資料を修正していった。文字化の方式の参考にしたのは、基本的には国立国語研究所編『日本のふるさとことば集成』である。一部、国立国語研究所編『方言談話資料』の方式も取り入れた。その方式を以下に示す。

1. 文字化の概要

文字化にあたっては、方言を文字化したものと、それを共通語訳したものを上下段に並べて表記した。方言は上段にカタカナで表記し、共通語訳は下段に漢字かなまじり表記で記してある。なお、基本的には文節で分かち書きしてある。

方言音声 → 上段、表音的カタカナ表記
共通語訳 → 下段、漢字かなまじり表記

2. 発話者の表示

① 発話の単位

発話権が移行するまでの連続した発話を1発話とした。あいづちは別に処理した。

② 話者記号

話者2名に対し女性が「A」、男性が「B」、調査者の発話には「調」の記号をあたえた。

③ 発話番号

発話の通し番号を、話者記号の前に入れてある。

例：001A：～ 012B：～

3. 固有名詞

本文中の話者名及び人名については、アルファベットに置き換えてある。

話者 → 「A」「B」の話者記号を使用。

第三者 → 「X」を使用。

4. 文字表記の基準

文字表記は原則として昨年度と同じ基準でおこなっている。

【方言文字化部分】

表音的カタカナ表記を用いた。音声の方言的特色は、下記に挙げた項目以外については特に書き分けることはしていない。（キの口蓋化、母音の無声化など）

長音：「ー」 例：ソーナンダ（×ソウナンダ）

助詞：「は」→「ワ」 例：ソイズワ ワガンネンダー

「を」→「オ」 例：キオツケナゼー

「へ」→「エ」 例：ガッコーエ イグ

鼻濁音：半濁点を使用した。

ガ行鼻濁音「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」

入り渡り鼻音は上付き文字を使用「ンダ」

中舌音：どちらかの音声の近いほうを採用した。

例：スに近いシ → 「シ」

シに近いス → 「ス」

「ア」と「エ」の中間の音については「エァ」「アエ」という表記も許容した。

例：「ンメァ（うまい）」「ナエ（ない）」

四つ仮名：「ジ」「ズ」に統一した。（「ヂ」「ヅ」の表記は使用していない）

例：「ホーズ（法事）」

【共通語訳部分】

基本的に方言の直訳とした。意味を通りやすくするため、一部意識となっている箇所もある。

助詞：ないと読みにくい場合は、適宜補い、[]で示した。

？：ないと疑問文と判断しにくい場合のみ適宜補った。

長音：感動詞などには長音記号「ー」を使用した。

その他：直訳では意味が通りにくい場合は、語句を補い、[]で示した。

5. 記号の見方

記号についても原則として昨年の基準に従っておこなっている。

【方言文字化部分】

。（句点）：意味的に1つのまとまりを持つ文の最後に付した。

、（読点）：意味的に切れ目のある部分に付した。一部読みやすさのために付した部分もある。

() : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
例：ヒデリデー (A ウーン) タイヘンダドオモッテッサ。

{ } : 笑い声、拍手などの非言語音。
例：{笑} {拍手}

~~~~~ : 聞き取れない部分には波線を引いた。  
例：オチャズケノ ~~~~~

聞き取りが不十分な部分は、聞こえた音を記した箇所に波線を引いた。  
例：コエズカレデ

\_\_\_\_\_ : 発話が重なっている部分には、普通の下線を引いた。  
例：(A ウン) ホンデア

===== : 発話が重なり、かつ聞き取れない部分には、二重下線を引いた。  
例：(B イヤイヤイヤ) ===== カラー。

発話が重なり、かつ聞き取りが不十分な部分にも、聞こえた音を記した箇所に二重下線を引いた。

例：(B イヤイヤイヤ) イタダイテオッカラー。

[ ] : 注記。[ ] 内の数字は注記番号で、項目ごとの最後に注記をまとめて記した。  
主に地域特有の言葉の意味や用法について解説してある。その他、特に注意しておきたい音声的特徴などにも注記をつけた。

例：クイタデランネ [1] ツツッテ

### 【共通語訳部分】

。(句点) : 意味的に1つのまとまりを持つ文の最後に付した。

、(読点) : 基本的に意味的に切れ目のある部分に付した。  
読みやすさを重視して付した部分もある。

? : 疑問文であることがわかりにくい箇所に適宜使用する。  
例：モッテッテケネー。

持っていってこない？

( ) : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。  
例：ソーヤッテ ムガシワネー (B ンダネー) ヤッタンダー。

そうやって 昔はね (B そうだね) やったんだ。

{ } : 笑い声、拍手などの非言語音。  
例：{笑} {拍手}

×××× : 言い間違いや言い淀みなど、共通語訳ができない部分。  
例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

~~~~~ : 聞き取れず、共通語訳も不明な部分には波線を引いた。

聞き取りが不十分で共通語訳も不十分な部分は該当箇所の下線を引いた。

例：ツナミ ~~~~~ ネクテ

津波 ~~~~~ なくて

_____ : 発話が重なっている部分には、方言の部分に準じて下線を引いた。

例：005A：ハイ コイッテ イーベガネッスー。

はい これで いいでしょうか。

006B：アー ソイズダー。 モラッテクダサイ (A ソーダ)

あー それだー。 もらってください (A そうだ)

===== : 発話が重なっており、聞き取れない、または聞き取りが不十分であり、共通語訳も不明な部分には、方言の部分に準じて二重下線を引いた。

例：ビョーギ ===== (B =====) シタンダ。

病気 ===== (B =====) したんだ。

[] : 方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：アンマリ ヨケー ナインダヨー。

あんまり 余計[に持って] ないんだよ。

※ 意味の説明や意識にも使用した。その場合は「=」を付してある。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]